

恐るべし!! ネイティブ全盲!! の巻

作: ミストニア漫画部



眼球使用困難症患者も重度になると白杖や画面読み上げ機能が必要です!

左の漫画はわたくし立川くるみの実体験漫画です。私は、動く光が視界に入ると堪え難い痛みと苦痛に襲われるため、動く光を見ないように生活しています。対象物が動いてなくても私自身が動けば周りの景色も動きます。その光もダメなのです。よって、外出時は白杖を用い、極力目に光を入れないようにしています。パソコンやスマホの操作も盲人向け画面読み上げ機能を使っています。一方、絵や写真、動いていない部屋の様子を見ることは可能です。なので、左の漫画は自分で書いたのですが、文字打ちは他の仲間にお願ひしました。私にとっては、絵を描くことよりも文字打ちの時のカーソルの点滅や、変換候補が現れる光の動きを見る方が苦痛なのです。

しかし、私はまだ良い方です。眼球使用困難症患者の中には、1日中暗室から出られない者、体調不良や精神症状を伴い、元気な視覚障害者よりずっと不自由な生活を余儀なくされているものもあります。そんな私も、体調不良があり、歩行訓練も月に2回程度が限界でした。しかし、手帳がないにもかかわらず歩行訓練を受けられた事は幸運です。それは、住んでいる場所が比較的都会であったことも関係しています。

また、晴眼者時代からパソコンに親しんでいたことで、画面読み上げ機能の習得もスムーズでした。しかし、多くの眼球使用困難症患者は画面読み上げ機能や歩行訓練の情報も入らず、福祉機器購入の補助やガイドヘルパーなどの支援も受けられずにいるのです。

そこで今、私たちは国に対して眼球使用困難症も障害認定されるよう働きかけています。どうか、私たちの活動にご支援くださるようお願い申し上げます。



←漫画のテキスト訳がこちらのQRコードから読めます!

な目う
いがえ
よ使ん
! 使ん!

